

シグマ研究委員会
61年度第1回運営委員会議事録

日 時 昭和61年4月25日（金）13:30~17:30
場 所 原研本部 第5会議室
出席者 梶山（東北大），中沢（東大原施），中嶋（法大），
村田（N A I G），若林（P N C），五十嵐，菊池，長谷川（原研）
オブザーバー：秋山（東大原施），飯島，川合（N A I G），
喜多尾（放医研），松延（住友原工），田村，
内藤，中川，浅見（原研）

配布資料

- (1) 前回議事録（案）
- (2) Medium Energy Nuclear Data等についてNNDCからの連絡
- (3) 核データ研究会プログラム粗案
- (4) シグマ特別専門／研究委員会議題
- (5) シグマ研究委員会の構成
- (6) シグマ研究委員会核データ専門部会グループ会合
- (7) 核種生成量評価WG活動計画
- (8) シグマ研究委員会旅費使用状況
- (9) J E N D L - 3 F P ファイル作成の進め方（案）
- (10) 熱中性子散乱WG計画

議事

1. 前回(61.3.14) 議事録確認

資料1により確認を行い、一部訂正の上了承された。

2. 事務局報告

(1) 中間エネルギー領域核データ情報交換の案内

五十嵐氏から、資料2のB N L のN N D Cからの連絡について説明
があった。その中で日本の関係者として中原氏（原研）と中村氏（核

研) をBNLに連絡したとの報告があった。なお、資料2は本委員全員にも配布することにした。

(2) 原子力学会関係

梶山氏から、村田氏の企画委員の任期が終るので後任を考えておいた方が良いこと、学会で分科会の在り方について検討をしていること、秋の分科会の特別会合を次のプログラム編集委(8月5日)までに決めておく必要があること等の説明があった。また、編集委員には菊池氏が留任するとの報告があった。次の企画委員は原研から出す順番であることから、人選を五十嵐氏に一任することにした。また、秋の特別会合のテーマには臨界安全、ORIGIN等が候補に挙り、村田氏に一任することにした。

飯島氏から、来年日本で臨界安全の国際会議があるので対応策を考えておく必要があるとの話があった。

3. 核データ研究会準備状況

五十嵐氏から、資料3により準備小委員会で検討したプログラムの粗案の説明があり、基本線については了承された。

4. 本委員会準備

昨年の本委員会の議題(資料4)をもとに討議を行い、(1)大学関係の活動(梶山氏)、(2)理研の活動、(3)特別講演:JENDL-3以後の問題(中沢氏)を中心に議論を行うことにした。また、期日は6月24日(火)11時よりとすることにした。

5. 専門部会活動

61年度のWG活動のやり方を中心に討議することにし、先ず菊池氏から核データセンターの61年度予算についての事情説明があった。浅見氏から事務局としてWG会合数の目標案(資料8)現在のWG構成(資料5)の説明があった。また、村田氏から資料6により4月18日の核データ専門部会のグループリーダー会合の概要について説明があった。これらの説明を通じて、今後はWG会合とJENDL-3の作業会合とを分離することが話合われ、その具体策を中心に議論が行われた。

JENDL-3関係のWG作業の分離については、すでに核データ

専門部会では了解が得られているが、他のWGではどうなるのかを中心討議され、作業の外注、原研本部での端末の使用等についても議論がおこなわれた。この中でJENDL-3のFPファイルの進め方（資料9）および核種生成量評価WGの現状（資料7）の説明があった。その結果、会合回数はあくまでも目標であって、各WGの会合のやり方は事務局がWG毎に相談して対応策を考えることになった。

飯島氏から資料10により熱中性子散乱WGの作業計画について説明があり、JEFとの関連等について討議が行われた。

次回は6月3日（火）午後原研本部で行うこととした。